

学校運営協議会議事録

日 時	令和3年（2021 年）11 月 24 日（水）			10 時 00 分～11 時 30 分		
会 場	北海道新篠津高等養護学校 会議室					
出 席 者	学校運営協議会委員 7 名			学校側 9 名		
出席者名	原 田 志 郎 磯 貝 隆 之 黒 壁 修 宮 川 卓 也 松 永 厚 美 佐 藤 千 佳 久 富 正 規 (校長)			佐 伯 正 文 (副校長) 難 波 繁 (教 頭) 法華津 英 昭 (事務長) 佐 藤 輝 明 (主幹教諭) 松 本 研 司 (総務部長) 小 原 一 幸 (教務主任) 木 元 稔 敦 (進路指導部長) 高 佐 裕 一 (寮務主任) 林 和 憲 (生徒指導部長)		
議 事		内 容				
1 令和3年度学校経営方針について		・ 学校経営方針について：校長から説明				
2 令和3年度教育活動及び寄宿舎生活について		・ 教育活動、寄宿舎生活などについて：事務局（佐伯副校長）から説明				
3 3 学年生徒の進路について		・ 現場実習先などについて：事務局（進路指導部長）から説明				
4 学校評価について		・ 教職員が行う評価票及び保護者・生徒のアンケートについて：事務局（佐伯副校長）から説明				
5 委員からの意見、感想		・ 学校の課題については、今後の改善に活かしてほしい。また、地域の関係機関を、社会に出るための学習の機会として活用していただきたい。 ・ 進路変更した生徒の想定されない状況について。 （事務局）改めて課題を整理しながら経験値を高めていくことが大切であり、寄宿舎での集団生活と卒業後の実際の場面を、さらに詳細に整理していく。 ・ 進路の状況については、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた業種もふくめ、生徒が希望する就職先を見つけていただきたい。 ・ 学校行事については、内容を変えたり縮小しながら実施できたことは良かった。また、新型コロナウイルス感染症対策のルールを学校で実践していることは、社会のルールを守ることに繋がっている。なお、学校の課題については、再発防止に努めてもらいたい。 ・ 村内で働きたい生徒がいた場合について （事務局）通勤可能な地域等を考えて、検討していく。 ・ 新型コロナウイルス感染症の対応について。 （事務局）時間を設定して、声かけで喚気をしている。消毒は、生徒登校後に寄宿舎職員で行っている。生徒のストレス改善については、日常的に担任や室担、養護教諭が生徒の相談にのっている。 ・ iPad 活用の課題について （事務局）帰省や帰舎時の私物のスマホの活用では、SNS での書き込み等のトラブル事案が見受けられ、指導している。 ・ 生徒はストレスの自覚が弱いことから、生徒が何を感じているのか、対話や寄り添うことが大切である。寄宿舎においても、先生方が全体で集まる機会は少ないが情報共有が大切である。なお、学校において新型コロナウイルス感染症が出ていないのは、大きな成果である。 ・ 授業や学校行事において、生徒のストレスの発散をどのようにするのが課題と思われる。新型コロナウイルス感染症が出なかったことは、それだけ生徒の会話等が制限されたこと。話すことは、社会に出てに必要な力なので今後も配慮した指導を願う。 ・ 校長より 生徒が豊かな生活につながるような指導を行っていく。また、ストレスがあることを表現できない生徒も見られるため、生徒一人一人に寄り添って教育活動を続けていき、充実した学校生活を送りながら、地域に貢献できる教育活動を進めていきたい。				
上記のとおり会議を開催した。						
令和3年 11 月 24 日 北海道新篠津高等養護学校長 久 富 正 規						